

学 生 海 外 研 修 報 告 書

鹿児島大学長 殿

【授業担当者】

所属/職名: 水産学部/准教授

氏 名: 石崎 宗周

授業科目名	卒業プロジェクト
研修先 (大学・国・都市名)	マレーシア・マレーシアトレンガヌ大学
研修期間	令和5年9月2日 ~ 令和5年10月6日
<p>〔研修の目的・概要〕</p> <p>目的:本研修は、国際食糧資源学特別コースの必修科目「卒業プロジェクト」の核をなす海外活動(=海外プロジェクト)に該当する。参加学生は各自の興味関心にもとづいた海外プロジェクト(事前準備と事後の総括を含む)を、指導教員の指導や海外協定校や国際機関の協力を得て実施し、その成果について報告書作成と発表を行うことで単位を取得する。</p> <p>概要:卒業プロジェクトの活動地域としてマレーシアを希望し、水産物のあらたな利用を課題として設定し、問題分析を行い、プロジェクトを計画した。計画は派遣先であるマレーシアトレンガヌ大学(UMT)の受入担当教員や同じ専攻の学生等と渡航前の事前打ち合わせを行った後に活動準備を行い渡航した。渡航後は、ショートセミナー等により相互に問題の共有を行い、進捗状況を確認しながら現地学生等と協働で活動を進め、帰国前日に報告会を行ない、活動総括を行った。今後、活動報告会を担当教員や受入れ先関係者とともにオンラインで実施し、助言を受けたのち、活動全般を卒業プロジェクト活動報告書としてまとめ、発表会で報告するとともに、概要をオンラインで共有する。</p>	
<p>〔研修の成果〕 *事前・事後学習も含む。研修の目的や学習成果の達成状況について、また地域のグローバル化や活性化に資する人材育成の観点からの成果についても記載して下さい。</p> <p>渡航前の問題分析、海外での現地学生等との協働による活動とその成果の中間とりまとめと発表を行なうことで、学生は海外の問題分析や問題解決の能力、地域住民や関係機関とのコミュニケーション能力およびプログラム全体の実施能力を高めることができた。現地では、ハラル食に関する授業や実習の参加や食の現場や加工場およびマーケットの視察を行ない、水産物のあらたな有効利用の提案をめざして、日本で健康食として考えられる発酵食品の開発や提案を試みた。ここで阻害要因を明確にし、解決法を現地学生等と検討し、ひとつの魚を用いた発酵食品の提案に至った。これらの活動や出発前の準備により、異なる宗教観に基づく食文化を通じた国際的な視点による食料問題や地域の問題の理解・分析や理解発展に貢献する力を養うことができた。また、この参加学生は卒業後水産高校の教員になる見込みであり、今回の活動で得られた経験を仕事とおして共有することは、地域のグローバル人材育成やグローバル化に大いに貢献するといえる。帰国後時間が経過しておらず、現在は成果をとりまとめる途中であり、これから着手される卒業プロジェクト活動報告書や卒業プロジェクト発表会で具体的に成果を確認する。</p>	
<p>〔今後の課題〕</p> <p>プロジェクトサイトでの協働・協学にはカウンターパート機関の都合と渡航学生の都合をすりあわせる必要があるが、ともに授業日程や就活等のスケジュールおよび渡航準備との兼ね合いがあり、対応が困難である。これらへの対応の検討が必要である。また、長期にわたる活動の場合、高騰している航空賃のみならず円安の影響による現地での活動経費や滞在費の負担が大きく、滞在先での学生寮の利用も検討するが、本学が安価で提供できていない状況は渡航先でも同じ状況で、支援制度の充実は必須である。</p>	